

令和5年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査の結果について

令和6年6月 こども青少年局

令和5年度 大阪市子どもの生活に関する実態調査の配付・回収状況

	配付数	回収数	回収率
小学5年生こども	18,975	13,124	69.2% (80.3%)
小学5年生保護者	18,975	13,174	69.4% (80.3%)
中学2年生こども	16,920	11,488	67.9% (74.2%)
中学2年生保護者	16,920	11,460	67.7% (74.2%)
5歳児保護者	18,686	14,138	75.9% (74.8%)
合 計	90,476	63,384	70.1% (76.8%)

本調査結果からの課題の抽出と施策の検討イメージ

こども・保護者への実態調査結果

- ・小5児童・保護者
- ・中2生徒・保護者
- ・5歳児保護者

こどもの貧困対策

- ・教育の支援
- ・生活の支援
- ・保護者に対する就労の支援
- ・経済的支援 他

1 課題の抽出

②ヒューマンキャピタル
(教育レベル等)の欠如

2 必要な施策の検討 3 区・局の役割の検討

・全市的な施策の検討とともに各区別の施策の検討が可能である。

③ソーシャルキャピタル
(近隣や友人等、つながり)の欠如

①、②、③が重なるところが
最も困難を抱えた層

①経済的資本の欠如

(注)調査結果データの相関性など詳細の分析は、大阪公立大学に委託

本調査における相対的貧困率等について

・本調査における「相対的貧困率」は、本市における小学5年生、中学2年生のいる世帯の大人を含めて算出し、世帯全体に占める等価可処分所得が貧困線に満たない世帯の世帯員の割合をいい、国民生活基礎調査における「子どもがいる現役世帯」の貧困率と概ね同じ考え方となっている。(5歳児のいる世帯も同様)

【国民生活基礎調査における貧困率等の分類より】

- ・相対的貧困率とは、一定基準(貧困線)を下回る等価可処分所得しか得ていない者の割合をいう。
- ・貧困線とは、等価可処分所得(世帯の可処分所得(収入から税金・社会保険料等を除いたいわゆる手取り収入)を世帯人員の平方根で割って調整した所得)の中央値の半分の額をいう。これらの算出方法は、OECD(経済協力開発機構)の作成基準に基づく。
- ・世帯の可処分所得はその世帯の世帯人員数に影響されるため、世帯人員数で調整する必要がある。最も簡単なのは「世帯の可処分所得÷世帯人員数」とすることであるが、生活水準を考えた場合、世帯人員数が少ない方が生活コストにおいて割高になることを考慮する必要があるため、世帯人員数の違いを調整するにあたって「世帯人員数の平方根」を用いている。
- ・「子どもがいる現役世帯の貧困率」は、子どもがいる世帯の大人を含めて算出し、現役世帯※2に属する世帯員全体に占める、等価可処分所得が貧困線に満たない世帯の世帯員の割合をいう。
 - ※1:「子ども」とは、17歳以下の者をいう。
 - ※2:「現役世帯」とは、世帯主が18歳以上65歳未満の世帯をいう。

・また、世帯構成は、「ふたり親世帯」、「父子世帯」、「母子世帯」、「その他世帯」で分類しており、「その他世帯」には、祖父母や親せき等と暮らしている世帯のほか無回答項目があることにより、分類できなかった世帯も含まれる。

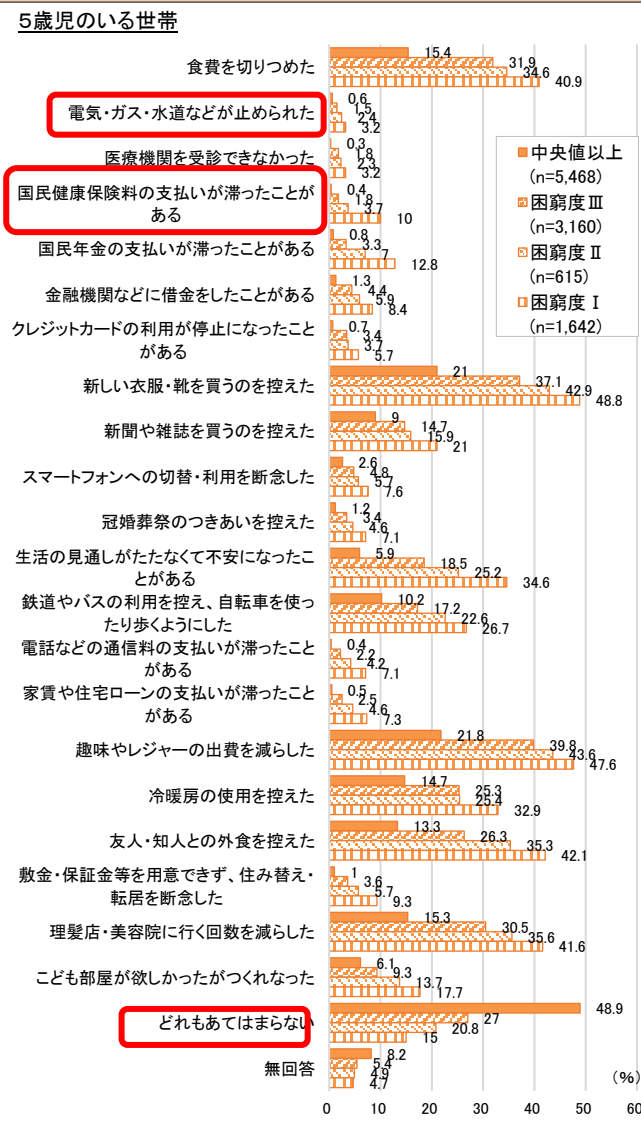
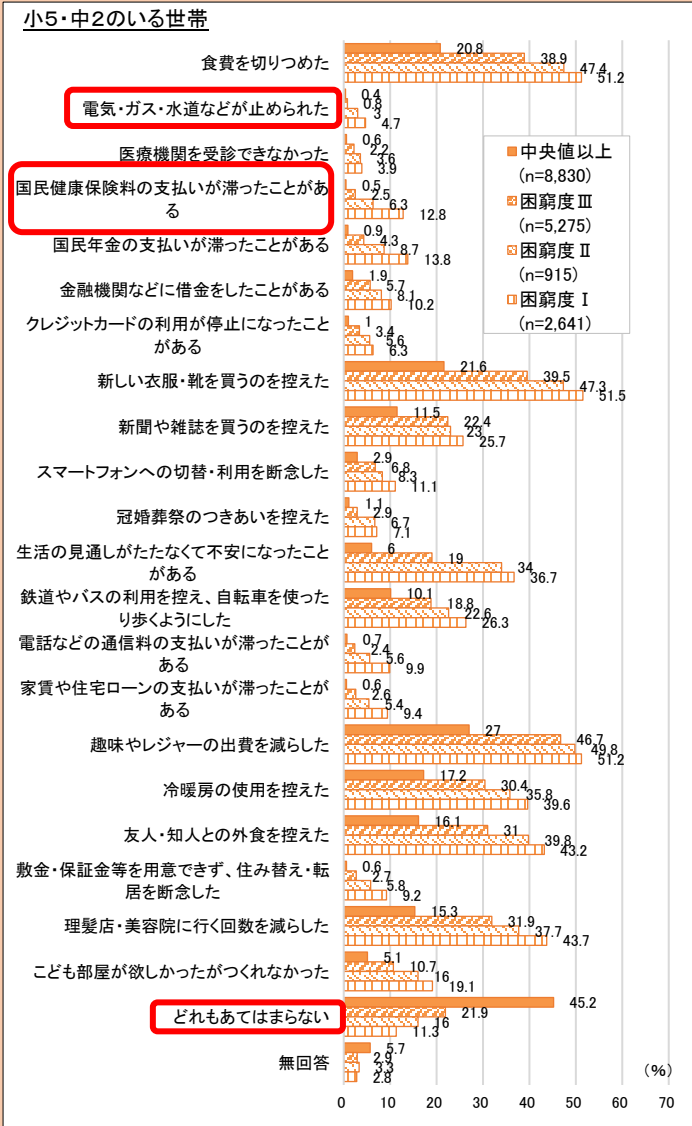
	大阪市(R5)		大阪市(H28)		国民生活基礎調査	
	小5・中2	5歳児	小5・中2	5歳児	R4	H30
等価可処分所得中央値 (貧困線)	265万円 (133万円)	280万円 (140万円)	238万円 (119万円)		254万円 (127万円)	248万円 (124万円)
等価可処分所得中央値以上	50.0%	50.2%	50.0%	52.5%	—	—
困窮度Ⅲ (等価可処分所得中央値未滿で、中央値の60%以上)	29.9%	29.0%	28.1%	29.6%	—	—
困窮度Ⅱ (等価可処分所得中央値の50%以上60%未滿)	5.2%	5.7%	6.6%	6.1%	—	—
困窮度Ⅰ (等価可処分所得中央値の50%未滿)	15.0%	15.1%	15.2%	11.8%	10.6%	13.1%

- ・等価可処分所得の数値(中央値・貧困線)は、前回調査と比較すると増加しています。
- ・全国の国民生活基礎調査では、困窮度Ⅰ群において数値の改善が見られますが、本市においては横ばいで厳しい状況にあります。

経済的資本の欠如の状況

1 困窮度別に見た経済的理由による経験

・困窮度別に見た、世帯における経済的な理由による経験



・困窮度が高くなるにつれ、「世帯における経済的な理由による経験」（経済的な理由でできなかったこと）に該当する割合が増えています。

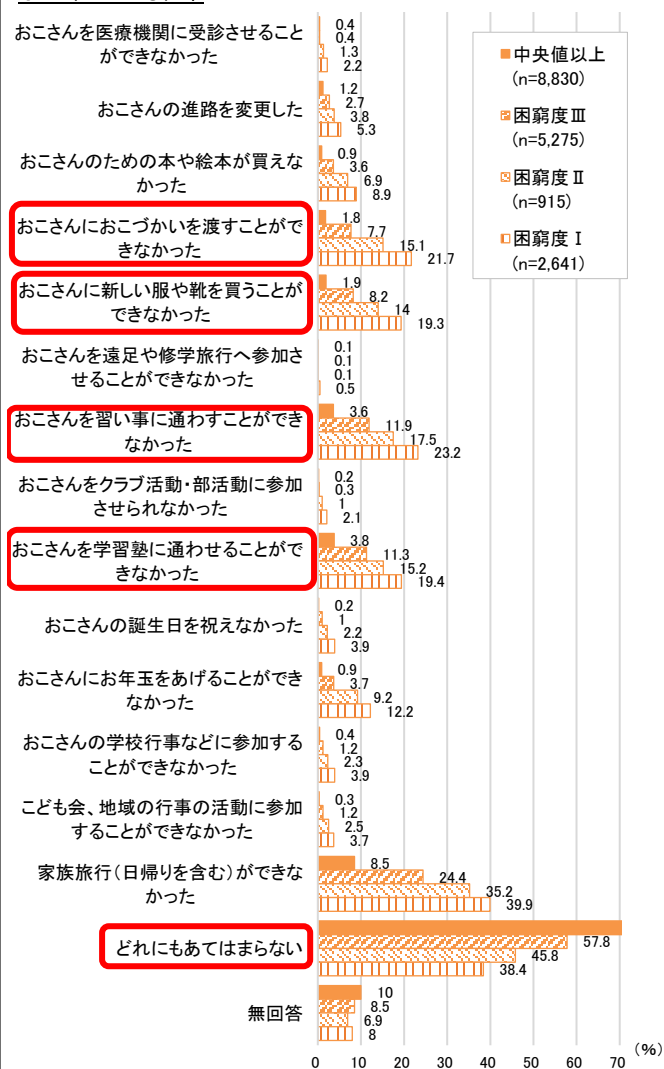
・前回調査と比較すると、「電気・ガス・水道などが止められた」や「国民健康保険料の支払いが滞ったことがある」といったライフラインに関わるような項目の割合が、困窮度にかかわらず低くなっています。

・結果として、「どれにもあてはまらない」（いずれの経験もしていない）の割合が増加しています。

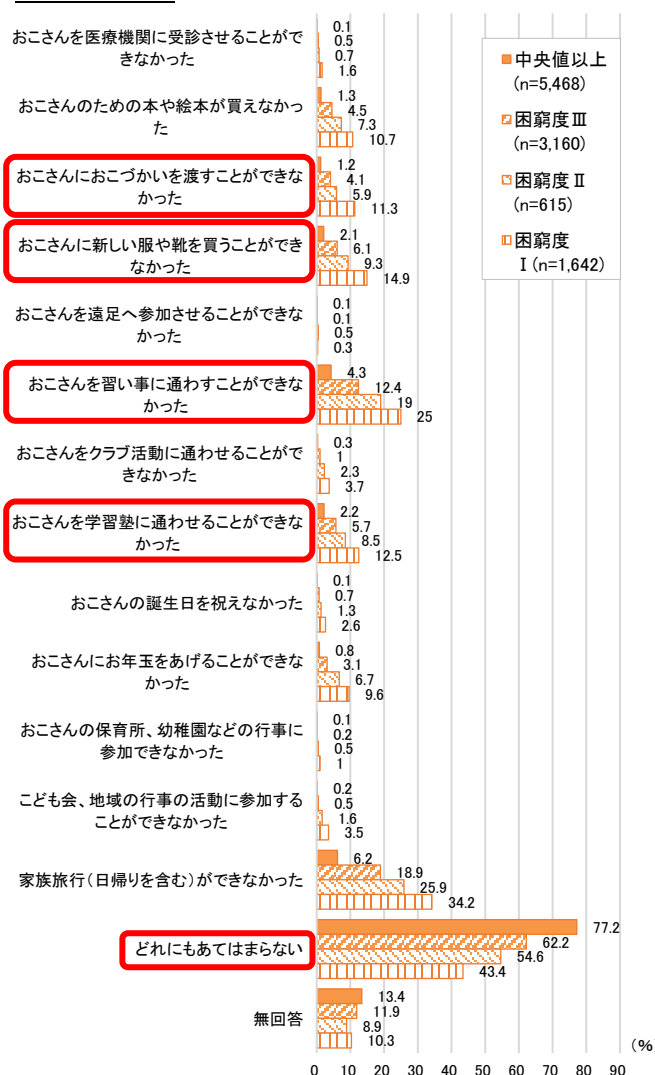
・生活の維持における困難は、前回調査時よりも改善傾向が見られます。

・困窮度別に見た、子どもに対する経済的な理由による経験

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



・困窮度が高くなるにつれ、「子どもに対する経済的な理由による経験(してあげられなかったこと)」が増えています。

・前回調査と比較すると、「おこづかいを渡すことができなかった」や「新しい服や靴を買うことができなかった」、「習い事や学習塾に通わせることができなかった」などの割合が減少しています。

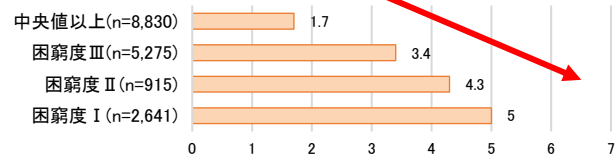
・そのため、困窮度にかかわらず、「どれにもあてはまらない(いずれの経験もしていない)」の割合が増加しています。

・「世帯における経済的な理由による経験」における改善に比べると、改善の割合が小さくなっている傾向が見られます。

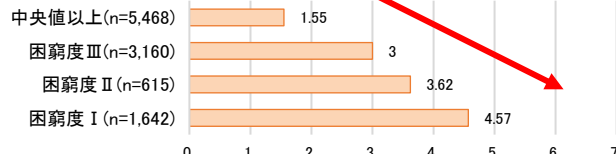
●参考資料8 P4

・困窮度別に見た、世帯における経済的な理由による経験の該当数の平均

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



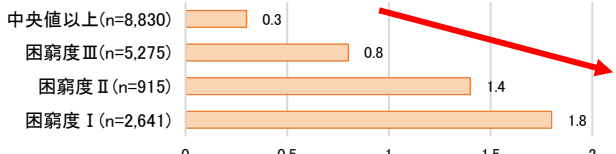
・困窮度が高くなるにつれ該当数の平均は多くなっています。

・前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず少なくなっています。

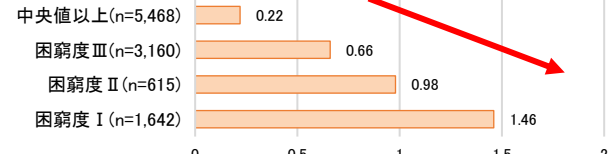
●参考資料8 P6

・困窮度別に見た、こどもに対する経済的な理由による経験の該当数の平均

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



・困窮度が高くなるにつれ該当数の平均は多くなっています。

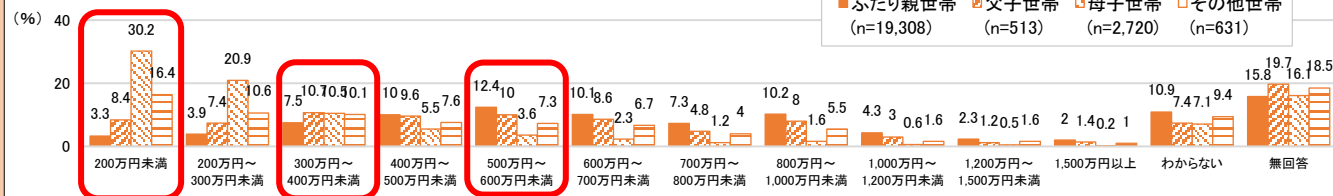
・前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず少なくなっています。

●参考資料8 P6

2 世帯構成別に見た経済状況等

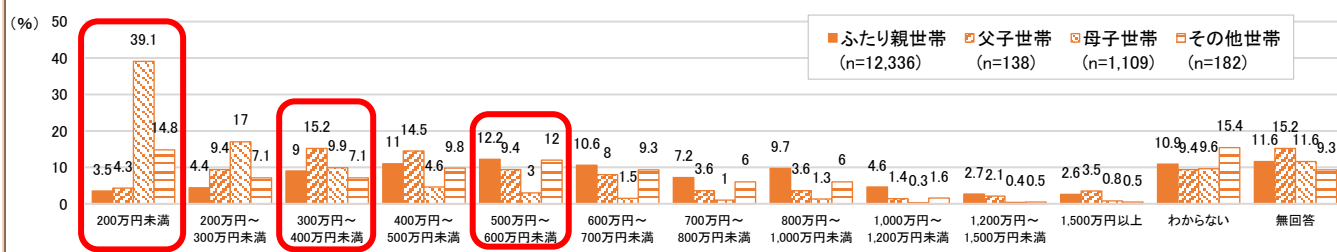
・世帯構成別に見た収入の状況

小5・中2のいる世帯



・「わからない・無回答」を除いて、ふたり親世帯は 500 万円～600 万円未満の世帯が最も多いのに対し、父子世帯は 300 万円～400 万円未満、母子世帯は 200 万円未満の世帯が最も多くなっています。

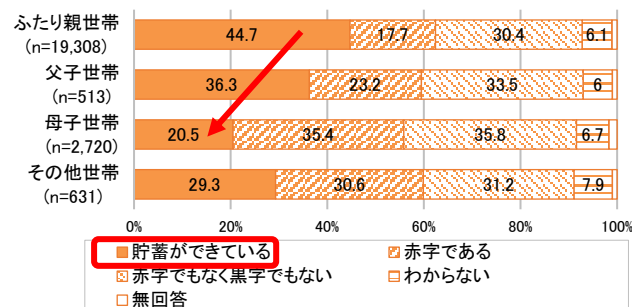
5歳児のいる世帯



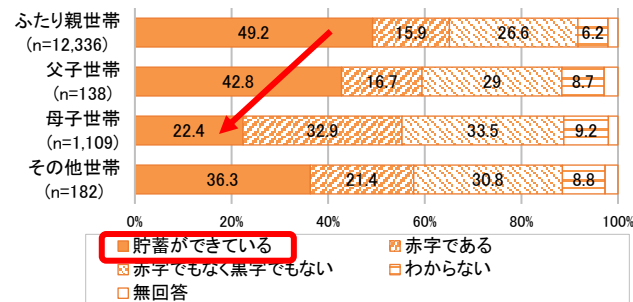
●参考資料8 P6

・世帯構成別に見た家計の状況

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



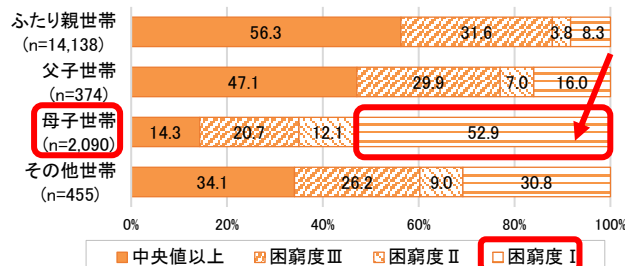
・ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、「貯蓄ができています」と回答する割合が低くなっています。

・前回調査と比較すると、どの世帯区分においても「貯蓄ができています」世帯の割合は増加し、「赤字である」世帯の割合が減少しています。

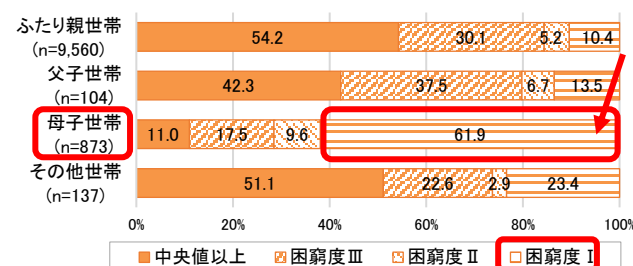
●参考資料8 P7

・世帯構成別に見た困窮度

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



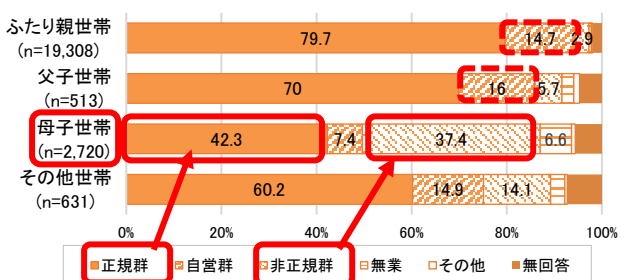
・ふたり親世帯、父子世帯、母子世帯の順に、困窮度Ⅰ群の割合が高くなっています。

・前回調査と比較すると、母子世帯において、困窮度Ⅰ群の割合が大幅に増加しています。

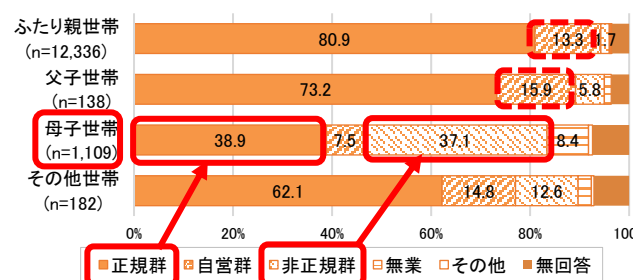
・令和4年国民基礎調査では、貧困率（ひとり親世帯（父子世帯と母子世帯））は、H30 48.3%→R3 44.5%と改善傾向にあります。

・世帯構成別に見た就労状況

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



・前回と比較すると、ふたり親世帯、父子世帯における非正規雇用が低くなっています。

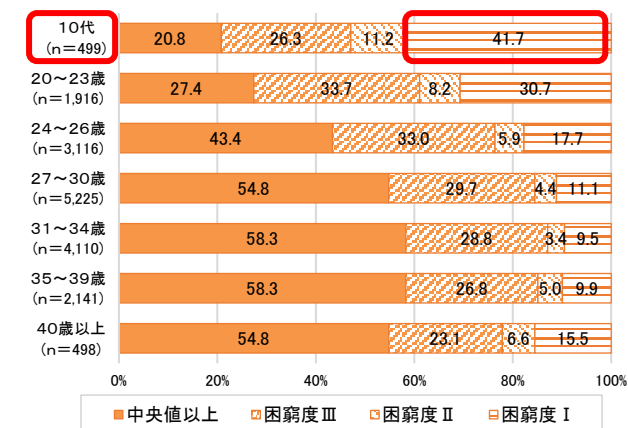
・母子世帯は正規雇用・非正規雇用の割合が変化していないという状況にあります。

●参考資料8 P7

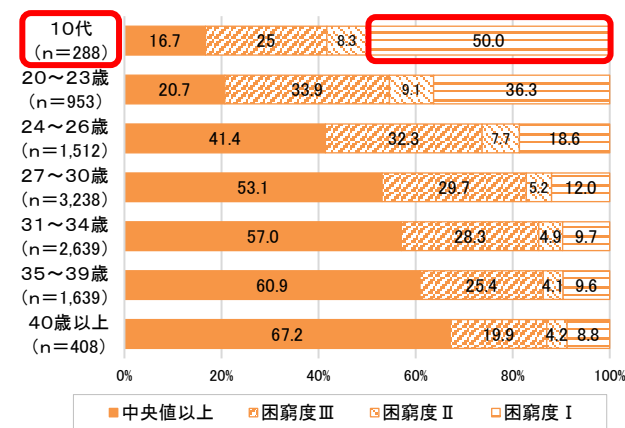
3 初めて親となった年齢別に見た母親の状況

・初めて親となった年齢別に見た、困窮度(母親が回答者)

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯

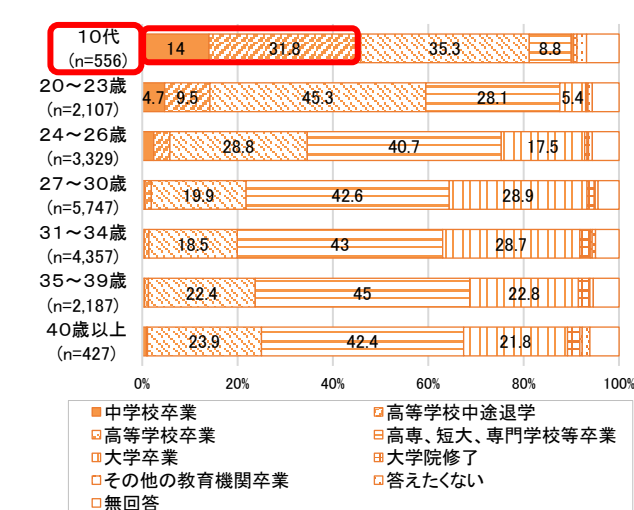


・10代で初めて親となった世帯を見ると、前回同様、他の世帯に比べて、困窮度Ⅰの割合が高くなっています。

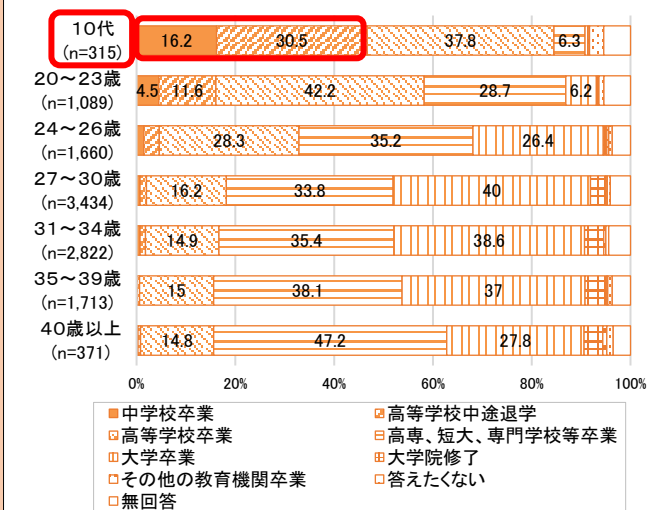
●参考資料8 P8

・初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴(母親が回答者)

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



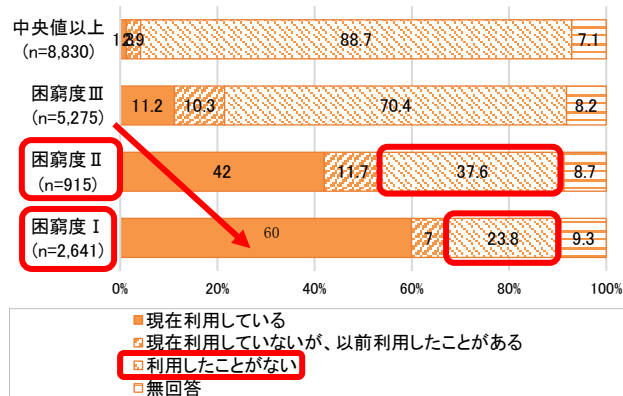
・10代で初めて親となった世帯を見ると、前回同様、他の世帯に比べて、「中学校卒業」や「高等学校中途退学」割合が特に高くなっています。

●参考資料8 P9

4 困窮度別に見た制度の受給状況

・困窮度別に見た、就学援助の受給状況

小5・中2のいる世帯



・困窮度が高くなるにつれ、「利用している」割合が高くなっていますが、困窮度Ⅰ群を見ると、「利用したことがない」割合が23.8%となっています。

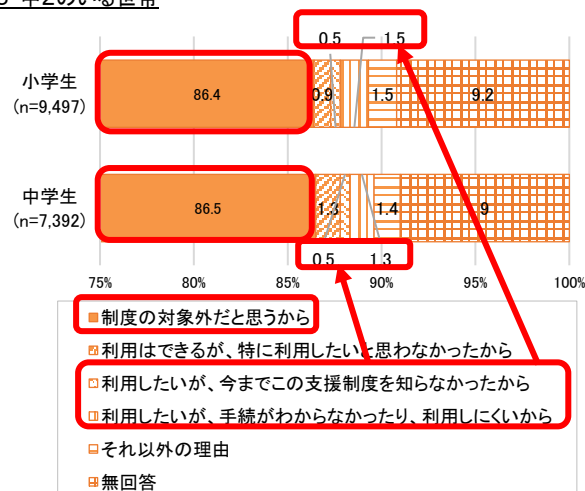
・前回調査と比較すると、困窮度Ⅰ・Ⅱ群において、「利用したことがない」世帯の割合が増加しています。

H28	利用したことがない
困窮度Ⅱ	19.4%
困窮度Ⅰ	13.4%

●参考資料8 P10

・就学援助を利用しなかった理由

小5・中2のいる世帯



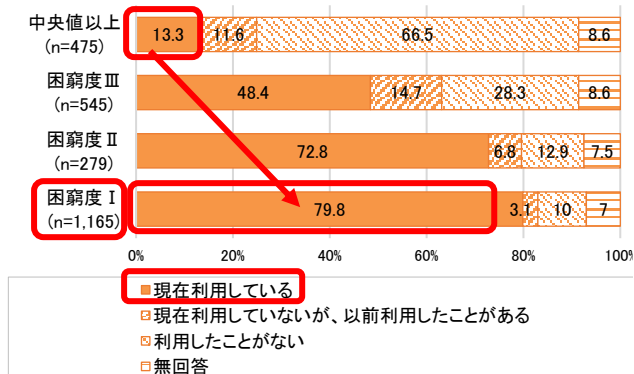
(前回質問項目なし)

・「制度の対象外だと思うから」の割合が最も多い理由になっています。

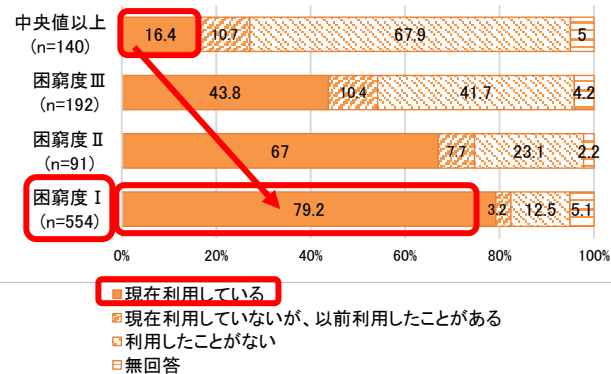
・一方で、割合としては低いものの、「制度を知らなかった」や「手続きがわからない、利用しにくい」などの理由も見られました。

・困窮度別に見た、児童扶養手当受給状況（ひとり親世帯）

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



・困窮度が高くなるにつれ、「利用している」割合が高くなっています。

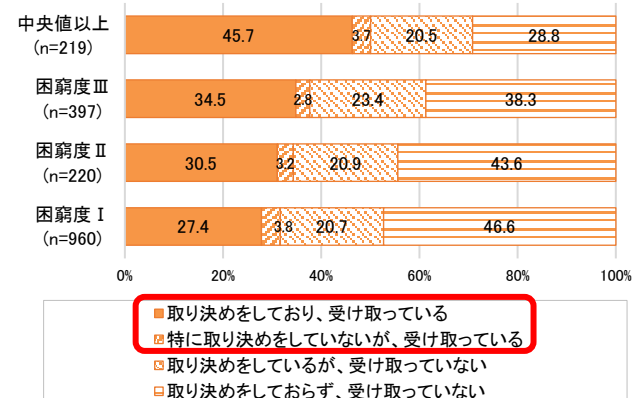
・前回調査と比較すると、困窮度Ⅰ群において、「現在利用している」割合が増加しています。

H28(困窮度Ⅰ)	現在利用している
小5・中2のいる世帯	76.2%
5歳児のいる世帯	71.0%

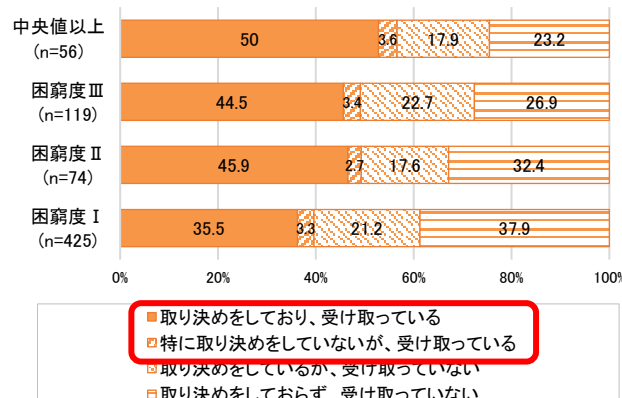
●参考資料8 P10

・困窮度別に見た、養育費受給状況（ひとり親世帯）

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



・前回調査と質問方法は異なりますが、「受け取っている」と回答した割合は大幅に増加しています。

H28 (受けている)	小5・中2 のいる世帯	5歳児のい る世帯
中央値以上	7.5%	9.4%
困窮度Ⅲ	9.7%	11.1%
困窮度Ⅱ	10.7%	9.5%
困窮度Ⅰ	11.4%	12.5%

・施策の効果が表れたと考えます。

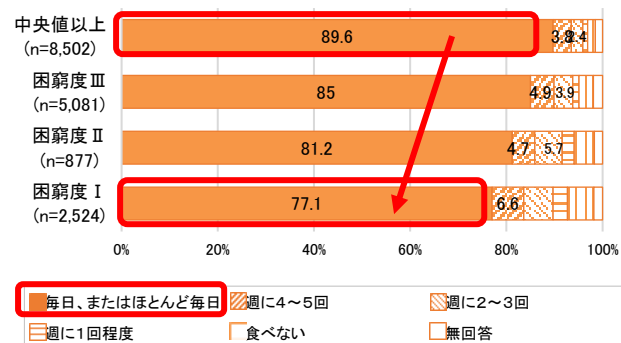
●参考資料8 P10

ヒューマンキャピタルの欠如の状況

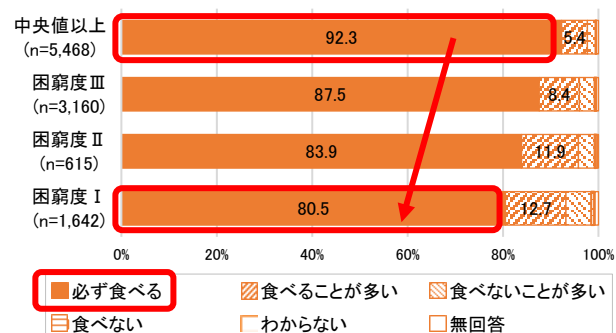
1 困窮度別に見た生活習慣の状況

・困窮度別に見た朝食の頻度

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯

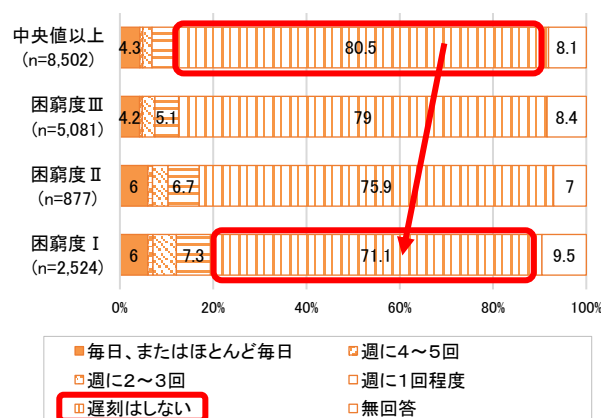


・前回調査と大きな変化はなく、困窮度が高くなるにつれ、「毎日、またはほとんど毎日」、「必ず食べる」と回答する割合が低くなっています。

●参考資料8 P11

・困窮度別に見た遅刻の状況

小5・中2のいる世帯

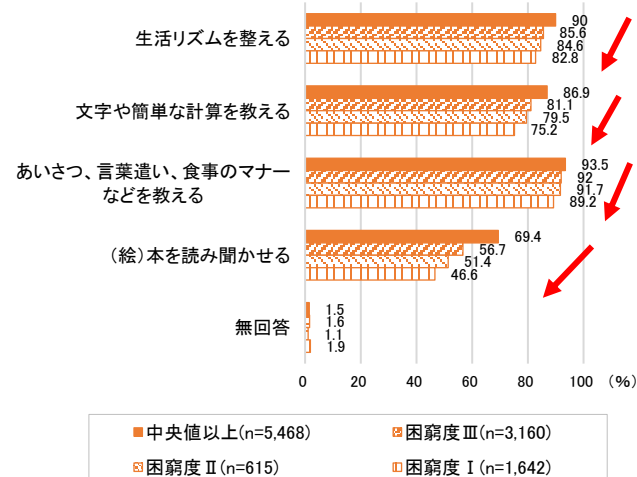


・前回調査と大きな変化はなく、困窮度が高くなるにつれ、「遅刻はしない」と回答する割合が低くなっています。

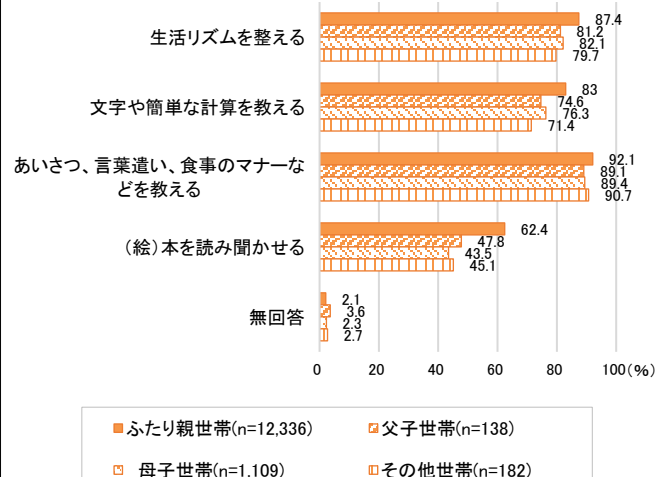
●参考資料8 P12

2 5歳児におけるしつけの状況

困窮度別



世帯構成別



・前回調査と大きな変化はなく、困窮度が高くなるにつれ、しつけをしている割合が低くなっています。

・ふたり親世帯とひとり親世帯（母子世帯、父子世帯）を比較すると、ひとり親世帯の方が、しつけをしている割合が低くなっている傾向が見られます。

●参考資料8 P15

- ・困窮度別に見た、自分の体や気持ちで気になること

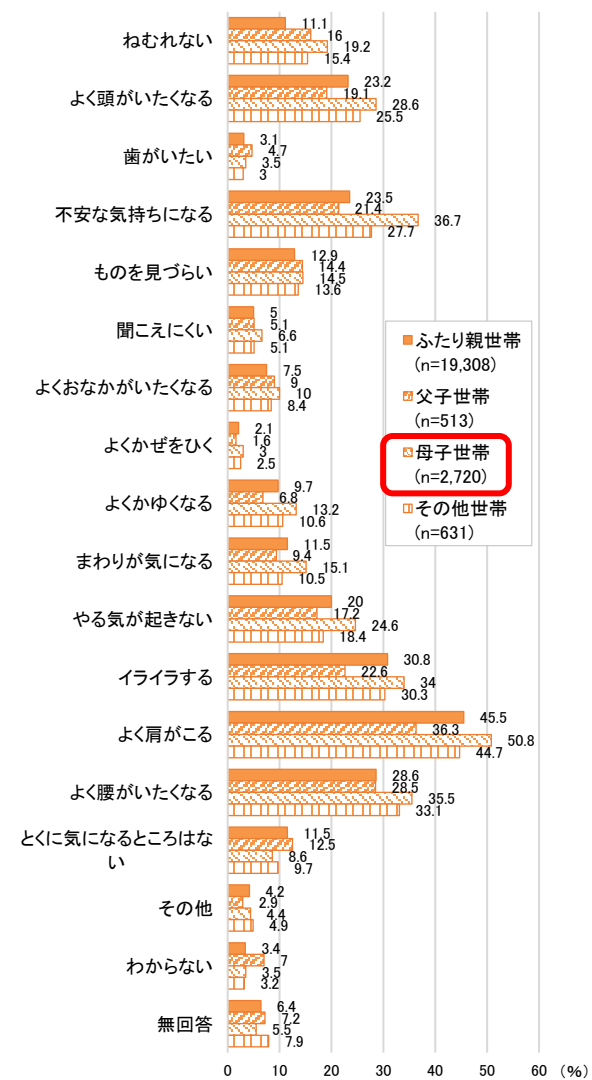
症状	中央値以上 (n=8,830)	困窮度Ⅲ (n=5,275)	困窮度Ⅱ (n=915)	困窮度Ⅰ (n=2,641)
ねむれない	9.9	13.7	15.3	18.3
よく頭がいたいくなる	21.6	25.2	29.2	30.1
歯がいたい	2.7	3.3	4.8	4.3
不安な気持ちになる	19.4	28.7	32.9	37.2
ものを見づらい	13	13.4	14.1	14.7
聞こえにくい	4.4	5.3	6.7	7.9
よくおなかがいたいくなる	7	8.1	11.5	10.2
よくかぜをひく	1.8	2.2	3	3.2
よくかゆくなる	9.2	10.6	12.2	14
まわりが気になる	10	13.7	13.8	14.8
やる気が起きない	17.4	23	23.9	24.9
イライラする	28.7	33.9	35.1	35
よく肩がこる	45.6	46.6	49.5	49.1
よく腰がいたいくなる	26.1	32.4	35	36.3
とくに気になるところはない	13.1	10.1	9.5	8
その他	3.8	4	4.7	4.2
わからない	2.7	2.8	3.7	3.5
無回答	5.9	5.5	4.3	5.4

症状	中央値以上 (n=5,468)	困窮度Ⅲ (n=3,160)	困窮度Ⅱ (n=615)	困窮度Ⅰ (n=1,642)
ねむれない	9.9	12.7	15.6	17.4
よく頭がいたくなる	21.6	26.2	28.5	30.2
菌がいたい	2.8	4.1	4.8	
不安な気持ちになる	18.5	25.6	28	36.3
ものを見づらい	5.5	6.4	6.2	8.2
聞こえにくい	2.9	3.9	5.2	6.5
よくおなかがいたくなる	6.8	8.7	6.8	11.6
よくかぜをひく	5.8	6.9	8.8	8.3
よくかゆくなる	9.2	9.5	12	13.4
まわりが気になる	11.4	16.3	19	17.2
やる気が起きない	17	21.8	22	27.6
イライラする	37.7	42.9	41.6	46.7
よく肩がこる	48.1			
よく腰がいたくなる	29	33.6	32.7	38.6
とくに気になるところはない	13	10.1	9.3	8.2
その他	3.1	3.1	4.9	4.1
わからない	2.4	2.8	2.8	3.5
無回答	4.2	3.4	3.3	2.4

・中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で差
が大きい項目を見ると、「ねむれない」や
「不安な気持ちになる」の項目に大きな
差が見られます。

- 14 -

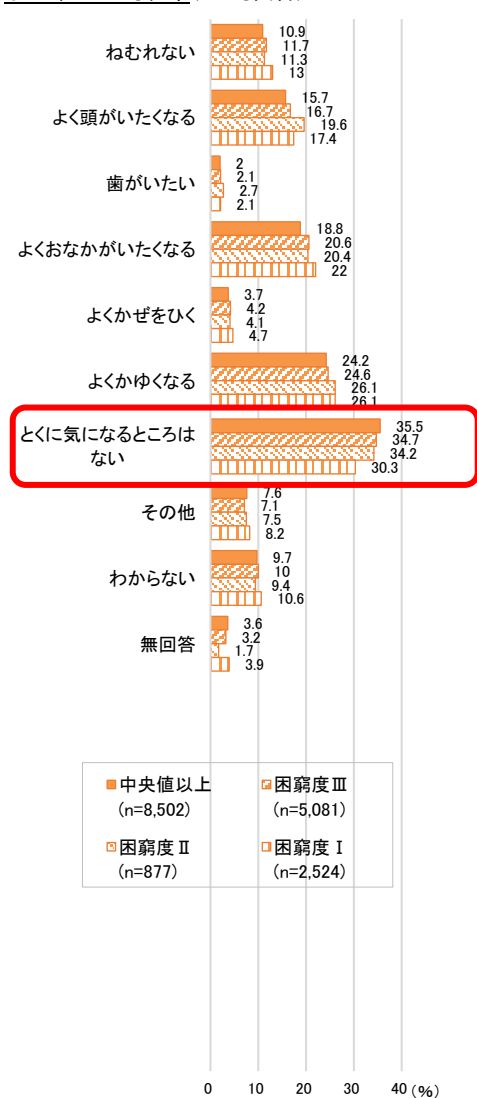
小5・中2のいる世帯(保護者回答)



症状	ふたり親世帯 (n=12,336)	父子世帯 (n=138)	母子世帯 (n=1,109)	その他世帯 (n=182)
ねむれない	11.1	13	22.5	14.3
よく頭がいたくなる	18.8	24.1	34.5	16.5
歯がいたい	3.3	3.6	3.3	3.3
不安な気持ちになる	21.9	26.8	38.4	20.9
ものを見づらい	6.1	5.1	8.3	4.9
聞こえにくい	3.7	1.4	5.9	5.5
よくおなかがいたくなる	7.5	6.5	12.9	6.6
よくかぜをひく	6.4	5.1	9.4	3.8
よくかゆくなる	9.6	8.7	12.6	11.5
まわりが気になる	13.7	13	16.8	14.3
やる気が起きない	19.9	17.4	29	19.2
イライラする	39.6	33.3	47.2	38.5
よく肩がこる	48.8	35.5	54.6	44
よく腰がいたくなる	30.8	32.6	39	31.9
とくに気になるところはない	11.2	15.2	14.8	7.6
その他	3.5	1.4	3.3	4.3
わからない	3	5.8	3.6	6
無回答	4.6	3.6	3.6	6

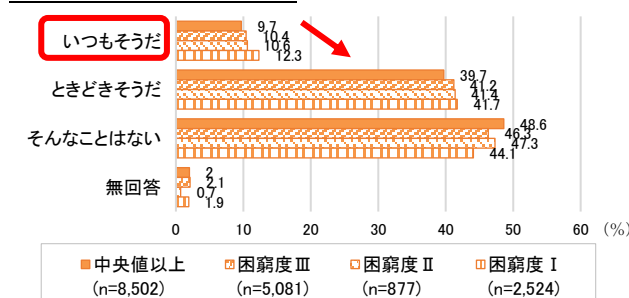
●参考資料8 P18

小5・中2のいる世帯(こども回答)



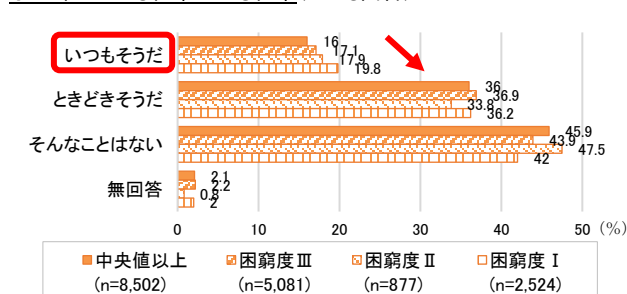
不安な気持ちになる

小5・中2のいる世帯のいる世帯(こども回答)



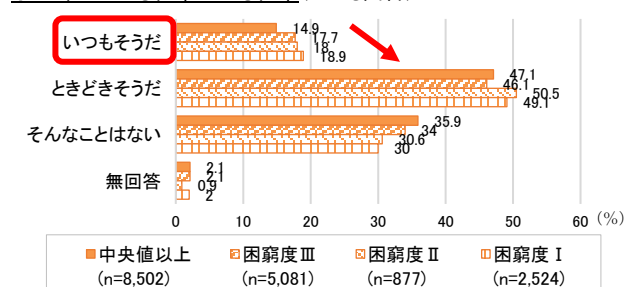
まわりが気になる

小5・中2のいる世帯のいる世帯(こども回答)



やる気が起きない

小5・中2のいる世帯のいる世帯(こども回答)



・こどもについては、保護者の場合ほど、中央値以上群と困窮度Ⅰ群との間で大きな差は見られません。

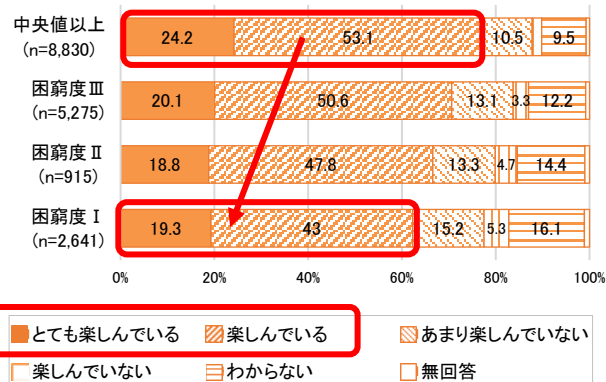
・困窮度にかかわらず、「とくに気になる
ところはない」の割合が高くなっていま
すが、中央値以上群では 35.5%、困窮
度Ⅰ群では 30.3%となっています。

・困窮度が高くなるについて、「不安な気持ちになる」、「まわりが気になる」、「やる気が起きない」について、「いつもそうだ」と回答した割合が高くなっています。

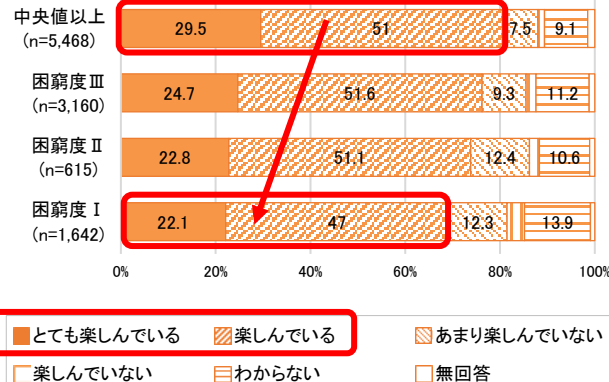
4 困窮度別に見た保護者の心の状態

・生活を楽しんでいる

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯

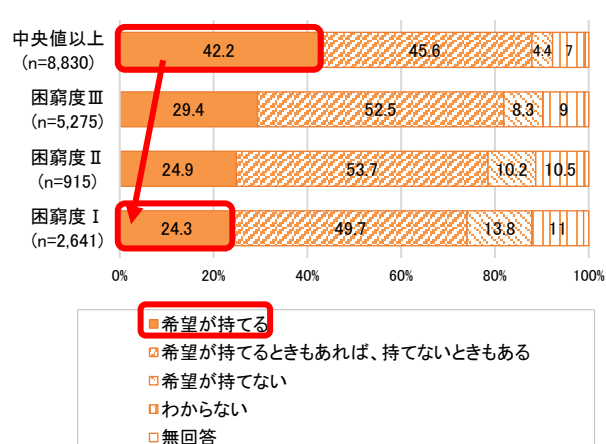


・前回調査と大きな変化はなく、困窮度が高くなるにつれ、肯定的な回答の割合が低くなっています。

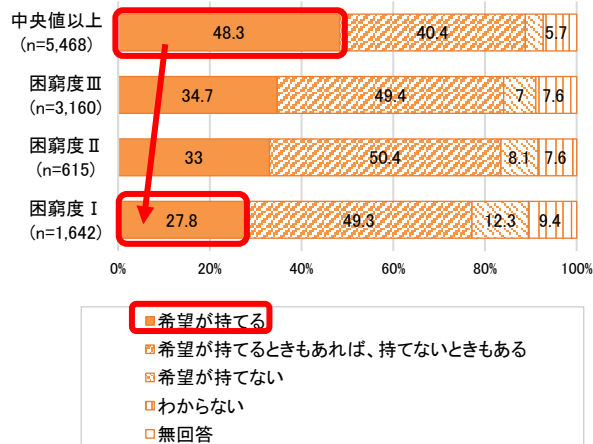
●参考資料8 P20

・将来への希望

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯

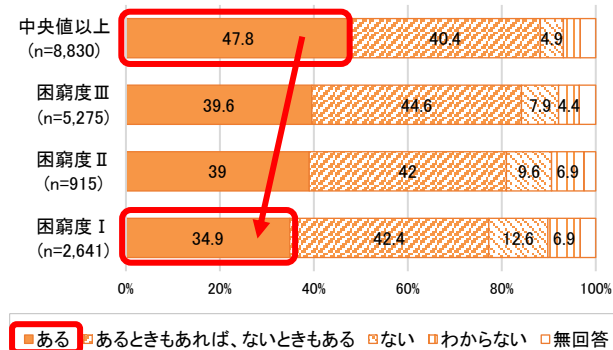


・困窮度が高くなるにつれ、「希望が持てる」と回答した割合が低くなっています。
 ・一方で、前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず「希望がもてる」と回答した割合が増えています。

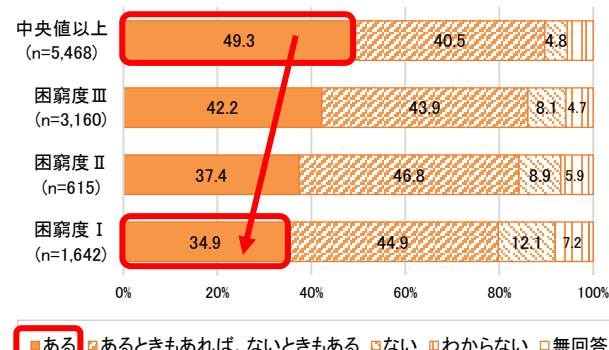
●参考資料8 P20

・ストレスを発散できるものが「ある」

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



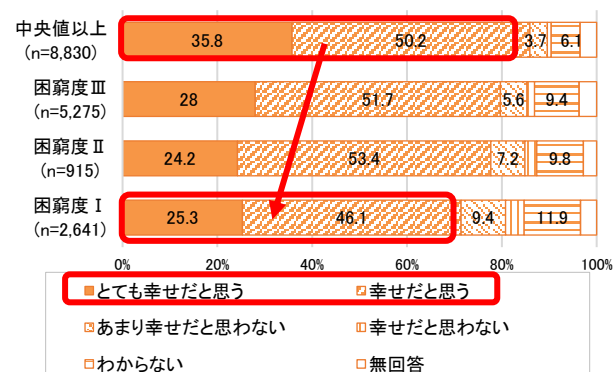
・困窮度が高くなるにつれ、「ある」と回答した割合が低くなっています。

・一方で、前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず「ある」と回答した割合が増えています。

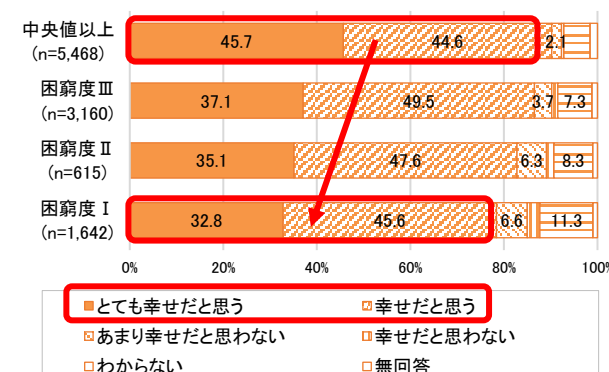
●参考資料8 P21

・幸せだと思う

小5・中2のいる世帯



5歳児のいる世帯



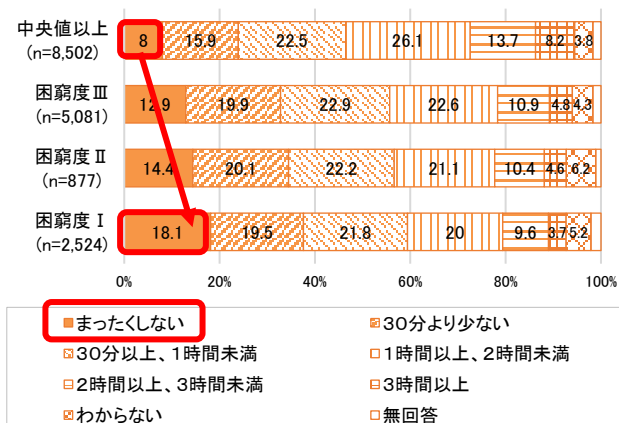
・前回同様に、「とても幸せだと思う」「幸せだと思う」の合計の割合は、困窮度が高くなるにつれ、低くなっています。

・前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず「とても幸せだと思う」と回答した割合が増えています。

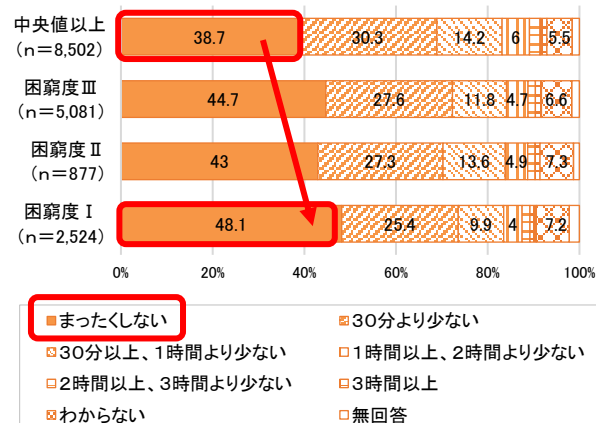
●参考資料8 P21

5 困窮度別に見た学習の状況(小5・中2のいる世帯)

授業以外の勉強時間



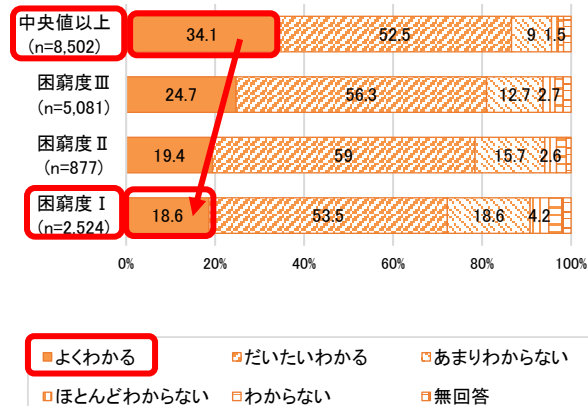
授業以外の読書時間



・前回調査と同様に、授業以外の勉強時間については、困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなっています。

・また、授業以外の読書時間についても、困窮度が高くなるにつれ、「まったくしない」と回答する割合が高くなる傾向にあります。なお、前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず「まったくしない」割合が増加しています。

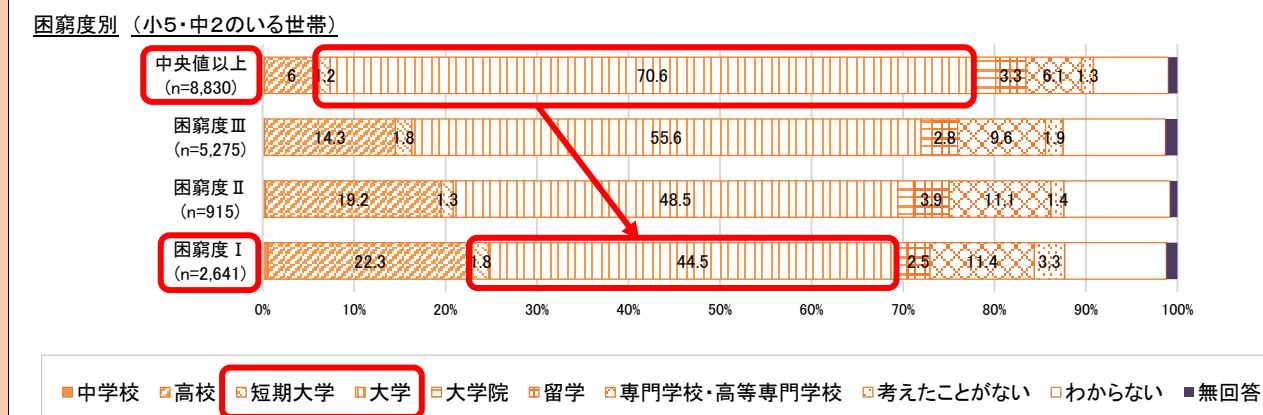
学習理解度



・学習理解度については、困窮度が高くなるにつれ、「よくわかる」と回答した割合が低くなっていますが、前回調査と比較すると、困窮度にかかわらず「よくわかる」割合が増加しています。

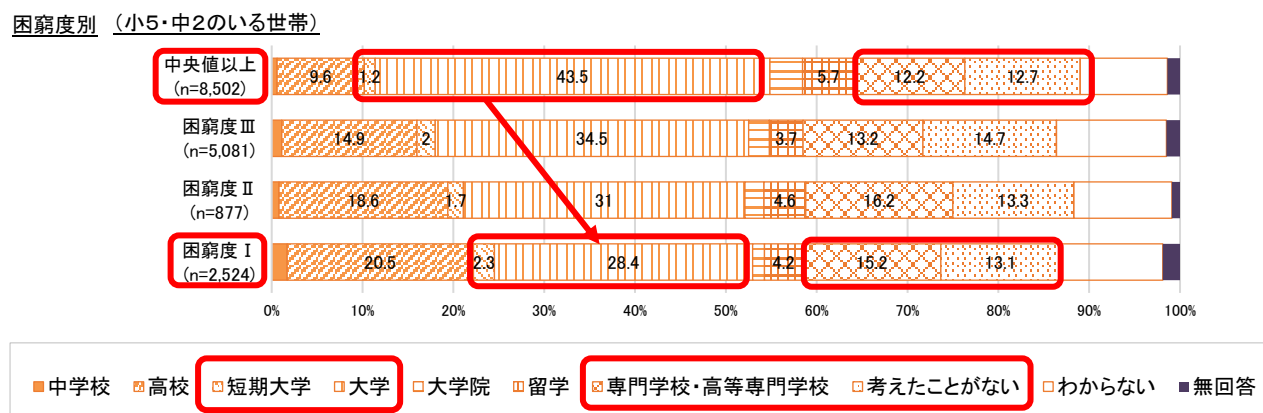
●参考資料8 P22

6 親がこどもに希望する進学先



・前回調査と同様に、困窮度が高くなるにつれ、「短期大学・大学」までを希望する割合が低くなっています。

7 こどもが希望する進学先

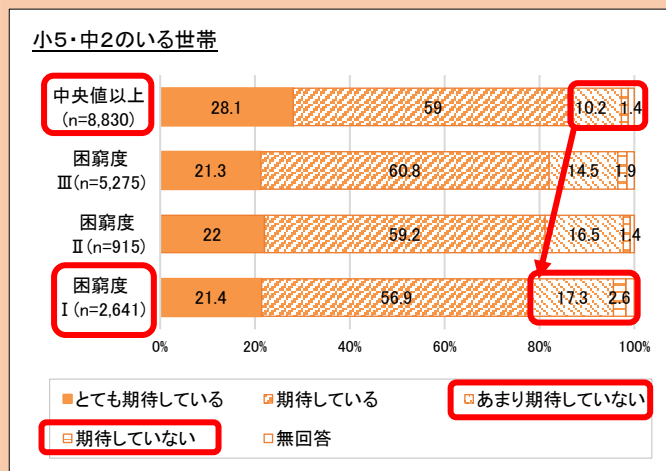


・前回調査と同様に、困窮度が高くなるにつれ、「短期大学・大学」までを希望する割合が低くなっています。

・保護者とこどもを比較したときに、保護者の方が「大学」までを希望する割合が高く、こどもにおいては「専門学校」や「考えたことがない」が高くなっています。

●参考資料8 P24

8 困窮度別に見た保護者のこどもに対する将来への期待



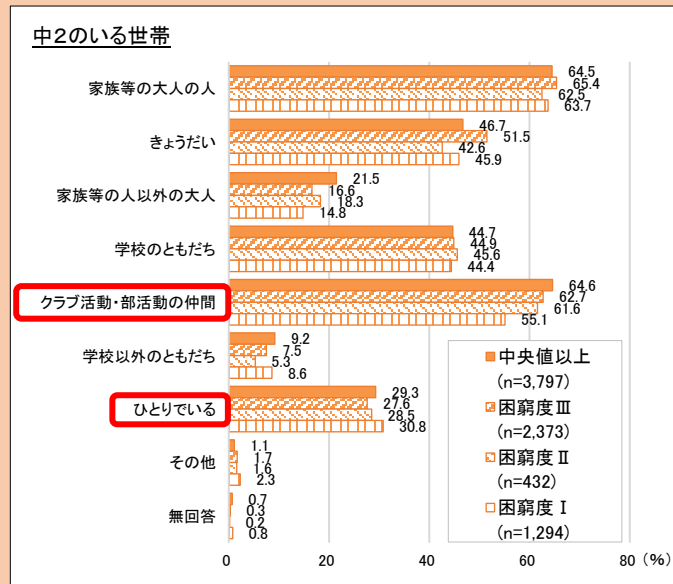
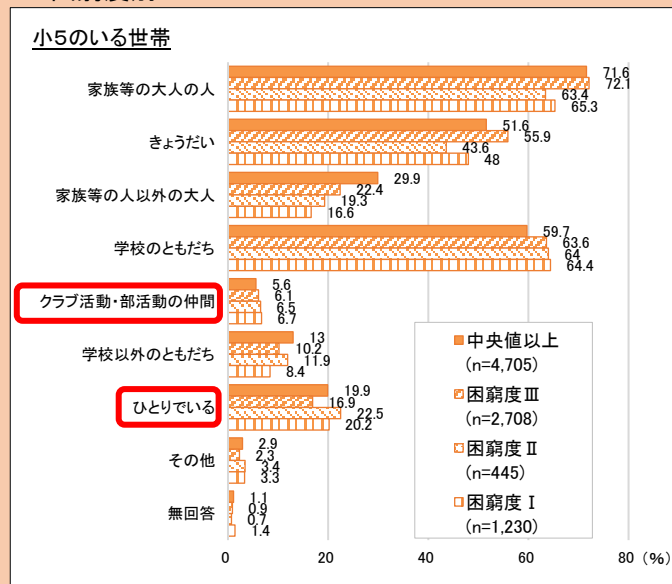
・前回調査と大きな変化はなく、困窮度が高くなるにつれ、「あまり期待していない」「期待していない」の割合が高くなっています。

●参考資料8 P26

ソーシャルキャピタルの欠如の状況

1 こどもが放課後に一緒に過ごす相手

・困窮度別



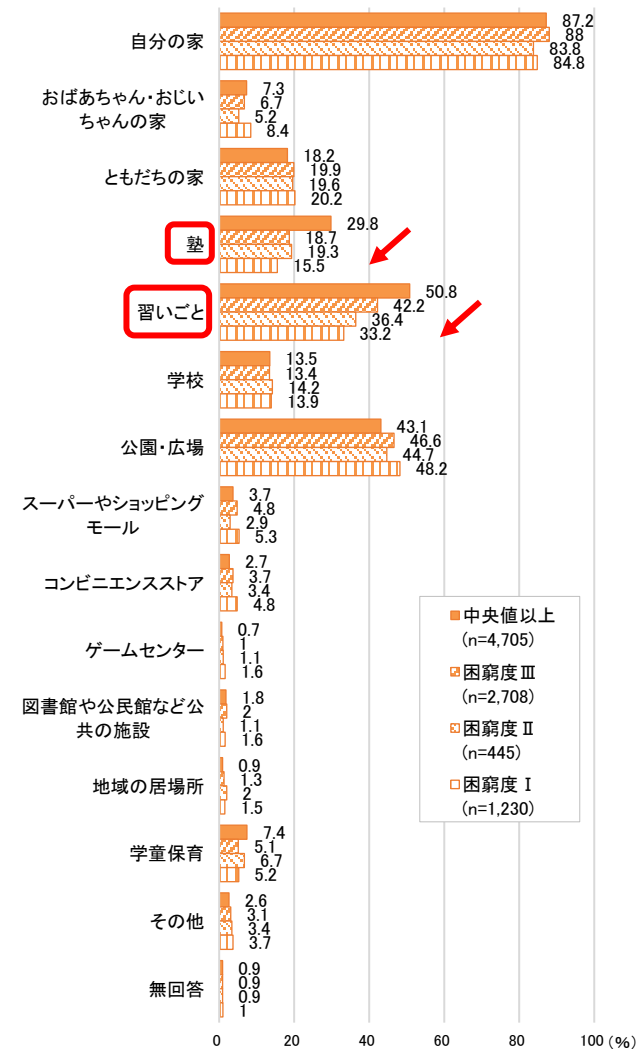
・前回と比較すると、「クラブ活動・部活の仲間」が減少し、「ひとりでのいる」割合が増加しています。

●参考資料8 P27

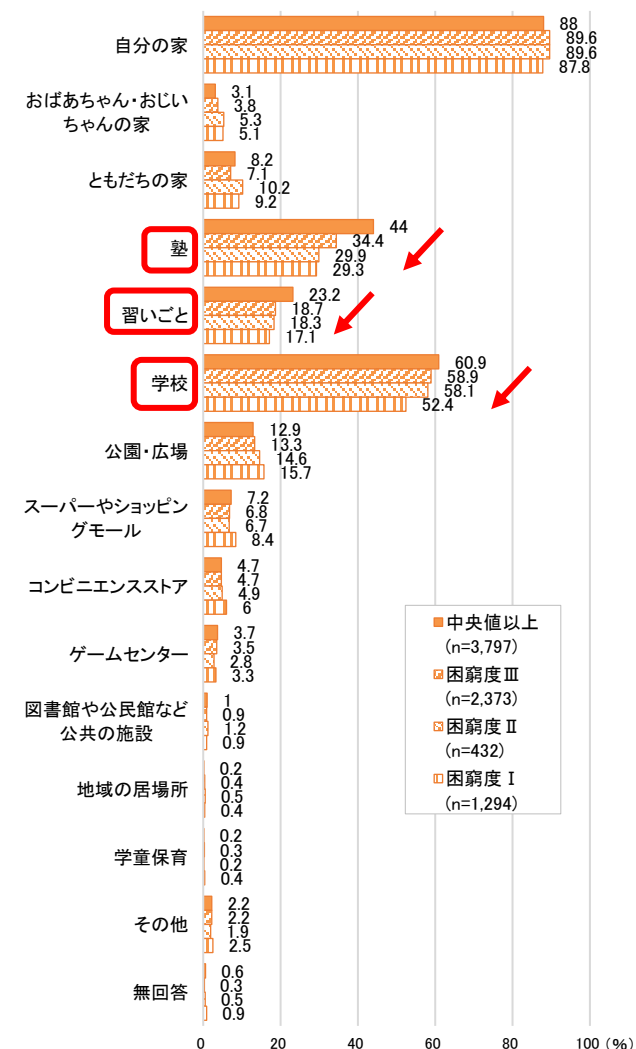
2 こどもが放課後に過ごす場所

・困窮度別

小5のいる世帯



中2のいる世帯



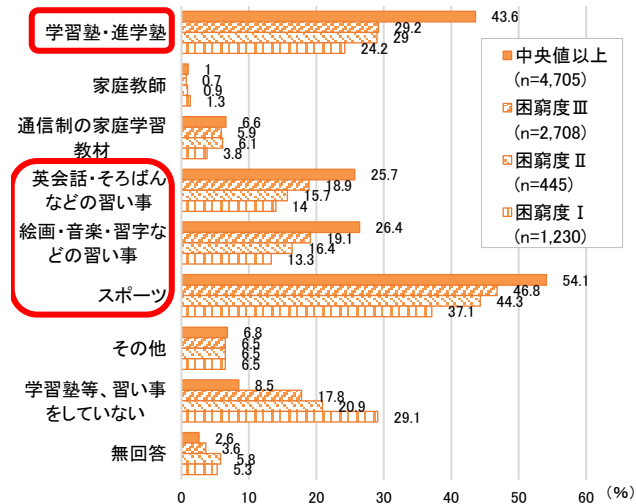
・小5のいる世帯では、「塾」や「習いごと」で過ごす割合が、中2のいる世帯では、「塾」、「習いごと」や、「学校(クラブ活動など)」で過ごす割合において、中央値以上群と困窮度Ⅰ群との差が大きくなっています。

・前回と比較すると、「自分の家」や「塾」「習い事」の割合が増加し、「ともだちの家」「学校」の割合が減少しています。

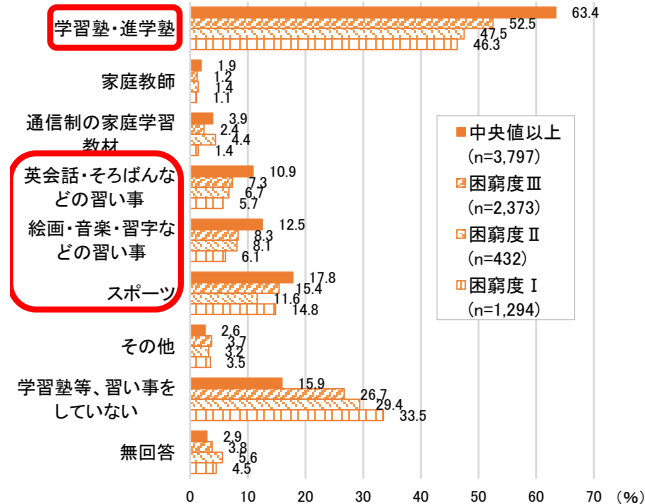
●参考資料8 P28

3 学習塾や習い事の利用状況

小5のいる世帯(子ども回答)



中2のいる世帯(子ども回答)

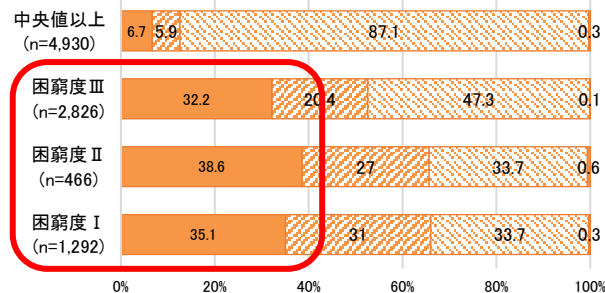


・小5のいる世帯と中2のいる世帯を比較すると、大きな違いが見られますが、困窮度が高くなるにつれて、利用している割合が低くなる傾向にあります。

●参考資料8 P30

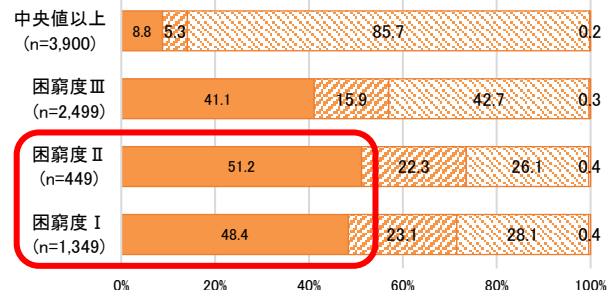
4 困窮度別に見た習い事・塾代助成事業の利用状況

小5のいる世帯



■ 持っていて利用している
 ▨ 持っているが、利用していない
 ▩ 持っていない
 □ 無回答

中2のいる世帯



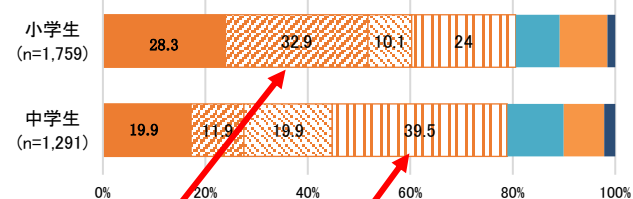
■ 持っていて利用している
 ▨ 持っているが、利用していない
 ▩ 持っていない
 □ 無回答

・小5のいる世帯(※)では、困窮度ⅠからⅢにおいて、「持っていて利用している」世帯の割合が3割を超えています。
 (※令和5年度より事業開始。)

・中2のいる世帯では、困窮度Ⅰ・Ⅱにおいて、「持っていて利用している」世帯の割合が前回と比較して増加し、「持っていない」世帯の割合が減少しています。

・習い事・塾代助成カードを持っているが利用しない理由

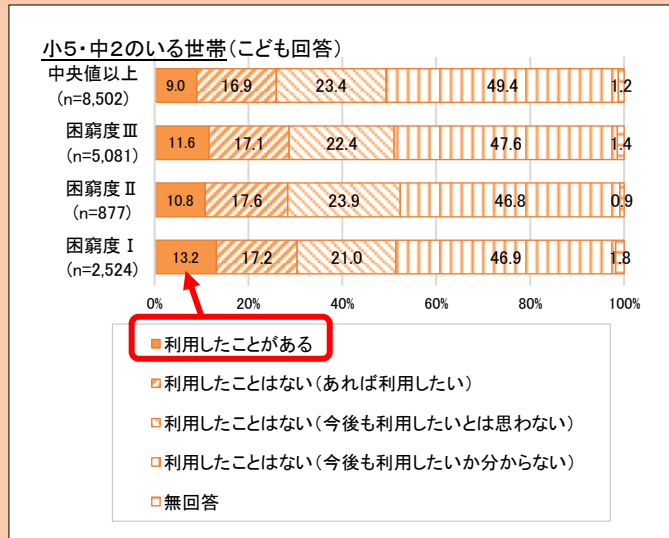
小5・中2のいる世帯



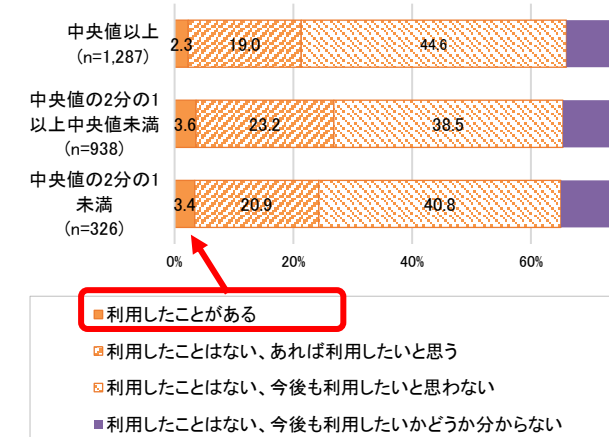
■ 利用できる学習塾等を探している
 ▨ 今通っている学習塾等では塾代助成カードを利用できない
 ▩ 助成額の1万円では行かせたい学習塾等に行けない
 ▨ 子どもの行きたくない
 ■ その他
 ■ 特に理由はない
 ■ 無回答

・小5のいる世帯については、「今通っている学習塾等では塾代助成カードを利用できない」、中2のいる世帯については、「子どもが行きたがらない」と回答した割合が最も高くなっています。

5 困窮度別に見たこども食堂などの利用状況



《参考》R3子供の生活状況調査の分析報告書(内閣府)

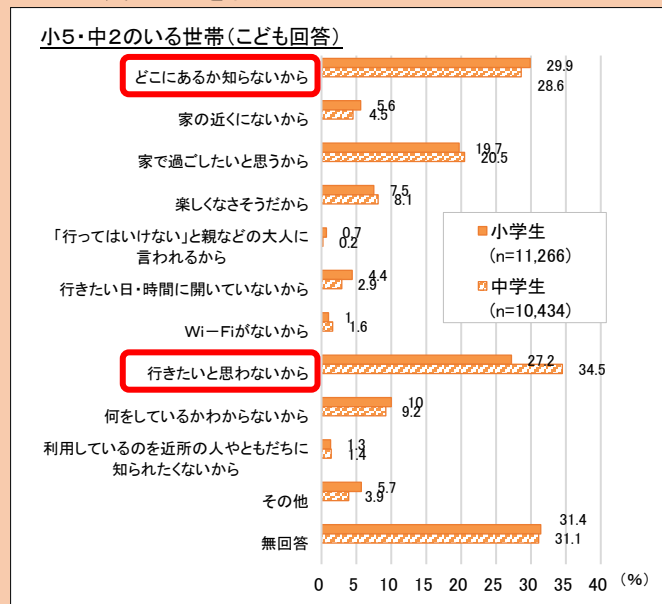


(前回質問項目なし)

・こども食堂などの利用率は、困窮度Ⅰの世帯がわずかに高いものの、全体的に一定の割合が「利用したことがある」と回答しています。

・内閣府の結果と比べると、本市においては、こども食堂などの利用率が高い傾向にあります。

・こども食堂などを利用したことがない理由

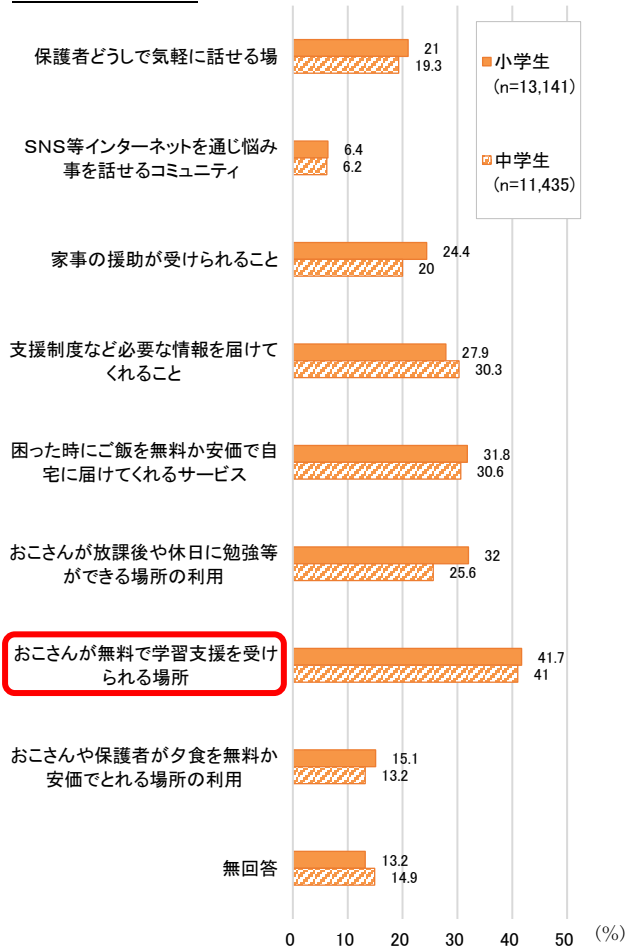


(前回質問項目なし)

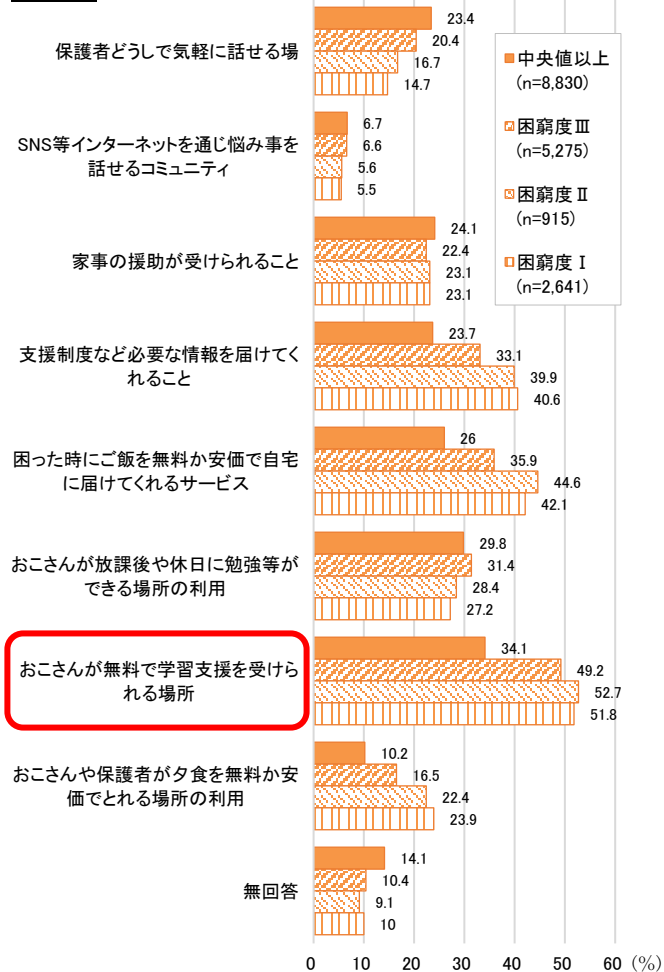
・「どこにあるか知らない」、「行きたいと思わないから」の割合が高くなっています。

6 保護者が身近にあるといいと思うもの

小5・中2のいる世帯



困窮度別



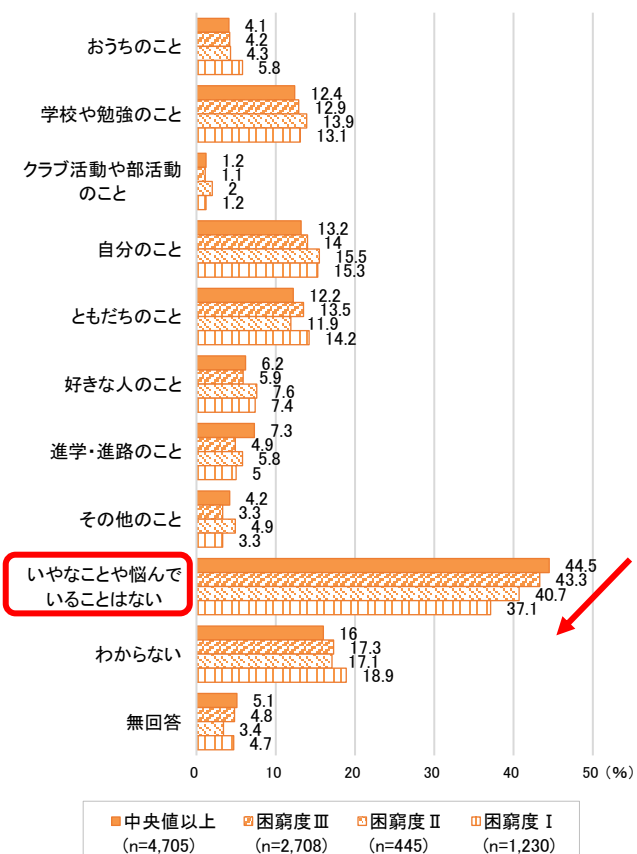
(前回質問項目なし)

・「無料で学習支援を受けられる場所」のニーズが最も高い割合となっており、そのニーズは困窮度が上がるにつれ、高い傾向になっています。

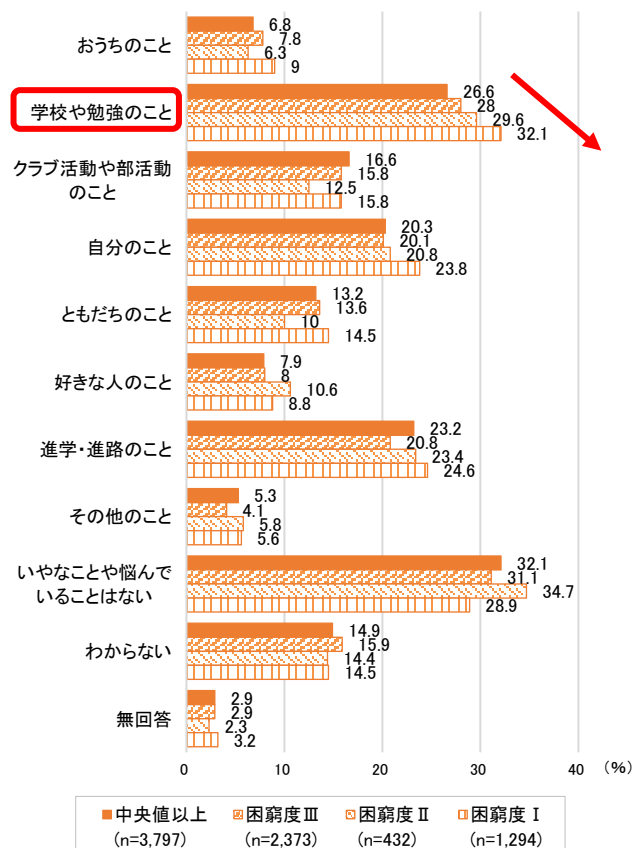
7 こどもの毎日の生活

・困窮度別に見た、悩んでいること

小5のいる世帯(こども回答)



中2のいる世帯(こども回答)



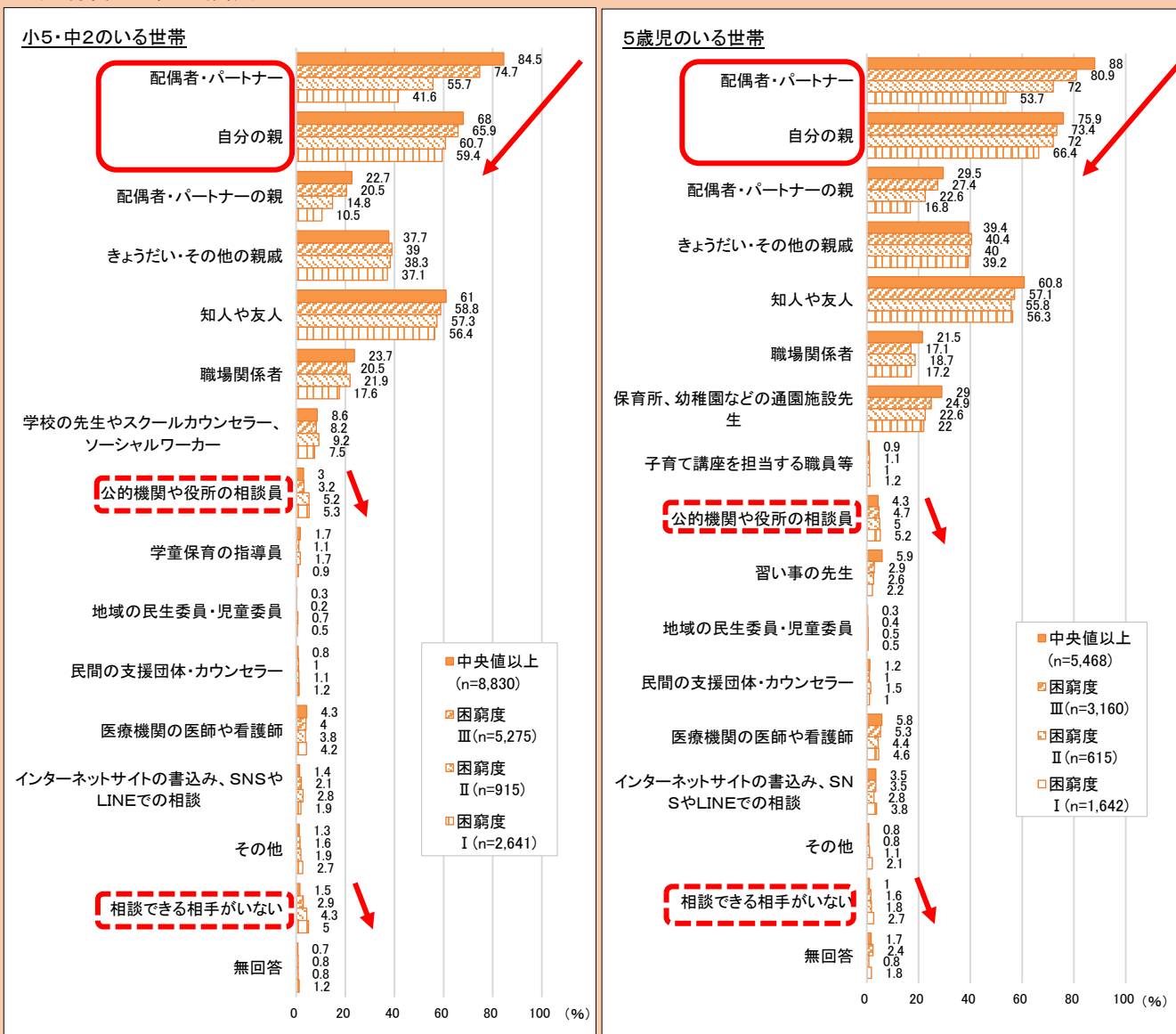
・小5のいる世帯では、困窮度が高くなるにつれ、「いやなことや悩んでいることはない」割合が低くなる傾向が見られます。

・中2のいる世帯では、困窮度が高くなるにつれ、「学校や勉強のこと」の割合が高くなる傾向が見られます。

●参考資料8 P31

8 保護者が困ったときの相談先

・困窮度別に見た相談先

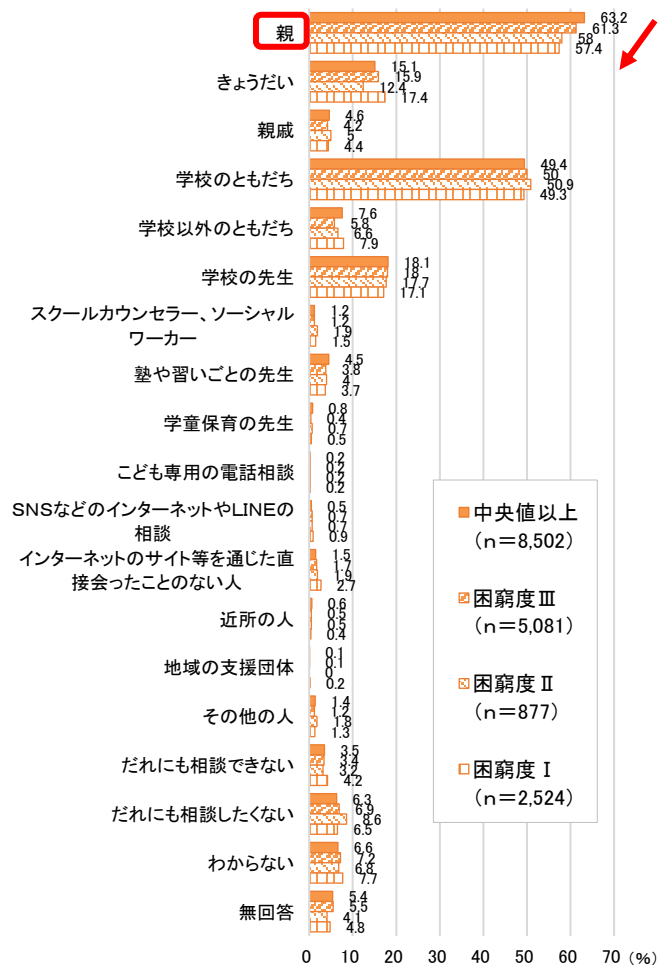


・「配偶者・パートナー」や「自分の親」に相談する割合が高くなっていますが、困窮度が高くなるにつれ、低くなっています。

・一方で困窮度が高いほど、「相談できる相手がいない」や「公的機関や役所の相談員」の割合が高くなっています。

・困窮度別にみた、こどもが困ったときの相談相手

小5・中2のいる世帯(こども回答)



・困窮度が高くなるにつれ、「親」に相談する割合が低くなっており、前回も同様の傾向が見られています。

・いずれの世帯でも、「だれにも相談できない」や「だれにも相談したくない」回答が一定数見られますが、前回と比較すると、いずれも減少しています。